

【活動のご報告】

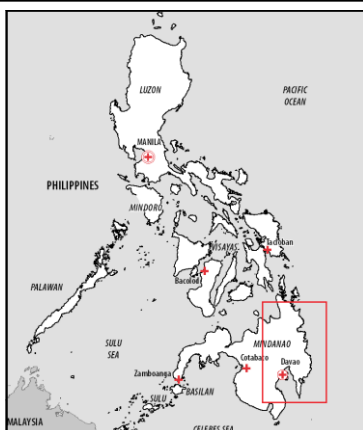
フィリピン南部台風の被害に対する赤十字の支援



被災者を診療する日赤医師（2013年1月）

～ みなさまのご支援ありがとうございます ～

2015年3月30日



フィリピン共和国

首都：マニラ

人口：約 9,234 万人（2010 年フィリピン国勢調査）

面積：299,404 平方キロメートル（日本の約 8 割）。
7,109 の島々がある。

言語：フィリピン語、公用語はフィリピン語及び英語。

宗教：国民の 83% がカトリック、その他のキリスト教が 10%。
イスラム教は 5%

1. 災害の概要

- 発災日：2013 年 12 月 4 日
- 被災地域：フィリピン南部ミンダナオ島
- 死者：1067 人 行方不明者：834 人
- 負傷者：2666 人
- 全壊家屋：8 万 9666 軒
損壊家屋：12 万 7151 軒
- 総被災者数：624 万 3998 人



暴風雨により甚大な被害を受けた被災地© IFRC

フィリピン南部ミンダナオ島を台風 24 号（ボファ）が直撃、激しい雨と風をもたらし、各地で洪水や土砂崩れなど甚大な被害が発生した。これらの状況を受けて、アキノ大統領は同年 12 月 9 日に国内の 50 州に対して国家災害事態宣言を発令。

2. 支援活動

国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）、赤十字国際委員会（ICRC）をはじめとする国際赤十字はフィリピン赤十字社の救援・復興支援活動を支援するため、緊急アピールを発表し、支援活動を実施しました。日本赤十字社も国際赤十字の一員として下記の支援を行いました。

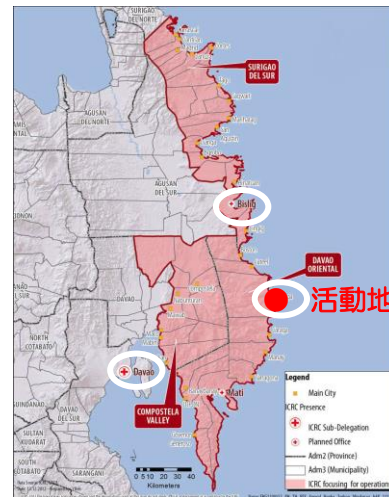
2.1 日本赤十字社の活動

（1）資金拠出

連盟の緊急アピールへ 2000 万円、ICRC の緊急アピールへ約 300 万円の資金援助

（2）医療チームによる救援活動

日本赤十字社は ICRC の要請を受けて、12 月末から 3 月 20 日まで基礎保健 RD（Rapid Deployment: 緊急対応）チーム 5 人を派遣しました。チームはもっとも被害が深刻な東ダバオ州バガンガに診療所を開設し、台風被害で機能を失った地域の保健医療施設に代わって被災住民に基礎保健サービスを提供したほか、母子保健のチェックやこころのケア、予防接種なども行いました。



<主な実績>

- ◇ 診療者数：7019 人
(2013 年 1 月 3 日～3 月 20 日)
- ◇ 主な疾患：呼吸器疾患、下痢等
- ◇ 妊産婦検診：135 人
- ◇ こころのケア：633 人（うち子ども 60%、女性 33%、7%男性）
- ◇ 地域保健従事者、教師への研修：155 人
- ◇ 保健衛生教育 1163 セッション（主に保護者を対象として実施）



診療を待つ患者の血圧測定

2.2 国際赤十字の活動

■ 赤十字国際委員会（ICRC）

ICRC は平成 24 年 12 月 13 日に緊急救援アピール発表（1000 万スイスフラン、約 9 億 700 万円）を発表し、台風対応を開始。その後、4305 万 5,000 スイスフラン（約 43 億 5,372 万円）に予算を拡大し、東ダバオ州、コンポステラ・バレー州、南スリガオ州の 3 州において支援を行いました。

<主な支援実績>

- 生活必需品や食糧の配付（30 万人対象）
- 飲料水の提供（2 万 5000 人対象）
- 給水設備の補修（20 村落、1 万 5000 人対象）
- 生活再建のための農業・漁業支援（3 万世帯対象）
- 家屋を補修・再建するための工具キットの配付（5000 世帯対象）など
- フィリピン赤に遺体収容袋を提供。
- 長年にわたり医薬品備蓄支援をしている上記 3 州の病院へ追加支援を実施

■ 国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）

連盟は、2013 年 12 月 5 日には、約 4 億円規模（4,523,369 スイスフラン、約 4 億円）の暫定緊急救援アピール発表。平成 24 年 12 月 21 日には緊急救援アピール発表（14,941,134 スイスフラン、約 14 億円）し、コンポステラ・バレー州と東ダバオ州において 18 カ月間、支援を行いました。

<主な支援実績>

- 17,000 世帯に食糧の配付
- 17,000 世帯に毛布等の日用品を配付
- 40,000 世帯に保健衛生教育を実施
- 8,105 世帯に住居修復支援
- 1,200 世帯に住宅再建支援
- 2,848 世帯 に生活再建支援
- 4 校に新しく給水・衛生設備を設置
- フィリピン赤十字社支部に救助と通信資機材を提供
- 支部事務所の建設



（写真上）コンポステラ・バレー郡の仮設住宅サイト。建設の仕上げを行う© IFRC



（写真上）赤十字の支援により再建された住宅に入居し喜ぶ夫妻 © IFRC

～みなさまのご支援ありがとうございました～



生活支援金をもとに、ニッパヤシを購入し、屋根を編む受益者の女性（東ダバオ州）。©IFRC



ニロ・ノスドさんは、生活再建の一環として稲作支援を受けました。雑草取りにも熱が入ります。（東ダバオ州）©IFRC

3. 海外救援金の使途

みなさまからお寄せいただいた約 1,552 万円の海外救援金をもとに下記の支援を行いました。

収入		支出	
海外救援金	15,519,722 円	国際赤十字への資金拠出 ※2	25,135,807 円
日本赤十字社活動資金※1	117,451,044 円	医療チーム等職員派遣費	2,044,198 円
		医療資機材購入費・輸送費	105,790,761 円
合 計	132,970,766 円	合 計	132,970,766 円

※1：日本赤十字社の緊急対応用の財源

※2：赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟の支援要請（アピール）への資金援助



©IFRC

日本赤十字社によるフィリピン南部台風支援の活動詳細や、国際支援活動に関する情報はホームページ（<http://www.jrc.or.jp/>）をご覧ください。